

「海水浴場の嫌われ者 ～アンドンクラゲ～」

独立行政法人 水産大学校 生物生産学科
教授 上野俊士郎

猛暑の8月、入道雲下に広がる青い海で海水浴を楽しんでいると、脇腹などにピリピリッと痛みが走ります。患部が筋状に炎症を起こし、むず痒く、数日間悩まされることがあります。楽しい海水浴がまったく台無しです。

これはアンドンクラゲ(以下地方名の「イラ」と記述)のしわざです。私はイラを10年余り研究しており、今回のオープンラボではこの海水浴場の嫌われ者のイラを紹介します。



卒業生の中村君と中谷内君のデザイン
の「頭にくらげ」

1. なぜ海水浴場にいるの？

イラは波静かな浅い沿岸域で生活するクラゲです。海水浴シーズンのちょうどこの時期に、餌を求めて海水浴場を泳ぎます。海水浴場の波打ち際近くには、小さな浮遊性甲殻類(アミなど)や稚魚が多く、これらを好んで捕食しているのです。

立場を変えて見ると、私たちがイラの生息場所を海水浴で侵害しているとも言えます。イラもビックリ仰天の接触事故ではないでしょうか。

2. いつからいつまでいるの？

イラは6月終わり頃にポリプからクラゲ体に遊離すると言われていています。ですから夏休み初めにはすでに海水浴場にいるのです。でも、まだ傘長1cm程の小さい体なので、人間に刺傷をあたえるほどのパワーがありません。しかし、お盆ころになると3cm前後まで成長して、稚魚などを捕食できるようになり、チクチクと刺すようになるのです。8月中下旬から9月頃がイラ達の繁殖時期で、子供達を産み出すために多くの餌を捕らえて栄養をとる必要があるようです。その後、12月くらいまで生息していますが、本来熱帯性の生物なので越冬はできません。

3. どんな体をしているの？

体はほとんど透明な箱状で、白っぽい4本の触手を引きながら泳ぎます。大きいものでも傘長5cmまでです。アンドンクラゲの和名は傘形が「行灯(あんどん)」に似ているから、そう呼ばれるようになったようです。

4. 刺されるとどうして痛く、また痒いの？

刺傷が細長いミミズ腫れ状になるのは、長い触手が皮膚に触れたためです。触手の上に無数にある刺胞が人間の皮膚に触れると、棘が飛び出し皮膚に突き刺さりますので、痛みを感じます。痛みの強弱は棘の大きさによるようです。また、管状の棘を通して注入された毒液が炎症などを起こして、痒いのです。

5. 刺されたら、どう処置をするの？

触手が皮膚に付着しているならば、まずピンセットや割り箸で除去して、患部を水洗した後に、炎症止めの薬をぬると痒みなどが緩和されると言われています。冷水や氷で冷やすのも効果的です。それでも炎症が治まらないとか、気持ちが悪くなるようだったら、お医者さんに診察してもらうのが一番です。

やっていけないことは、付着した触手を除去せずに砂やタオルなどで患部をこすすることで、刺症を拡大させ悪化させます。イラの刺胞毒は非常に強いのですが、触手が細くて刺胞が比較的少ないので、とくに多数に刺されないと普通大事にいたるまではないでしょう。しかし、クラゲ毒はハチ毒と同様に刺されるたびに刺症がひどくなるといわれていますから、むやみに刺されないようにしましょう。

6. 近縁なクラゲ達は？

イラは、ミズクラゲやタコクラゲと同様に刺胞動物です。しかし、ミズクラゲは鉢虫類で、一方イラは立方クラゲ類で、分類学上の所属グループが違います。

わが国で5種の立方クラゲが報告されています。これらの立方クラゲ達は刺胞毒が強いことと、傘がほぼ透明で遊泳速度が速いのが特徴です。このうち、ハブクラゲは沖縄で死亡事故まで起こしています。

刺胞動物門

立方クラゲ綱

アンドンクラゲ科

ミツデリッポウクラゲ *Tripedalia cystophora*

アンドンクラゲ *Carybdea rastoni* (下関の地方名「イラ」)

ヒメアンドンクラゲ *C. sivickisi*

ヒクラゲ *Tamoya haplonema*

ネットアイアンドンクラゲ科

ハブクラゲ *Chiropsalmus quadrigatus*

7. 刺されないためには、どうしたら？

イラがいるので、お盆過ぎの海水浴場はほとんど閉鎖状態になります。海水浴をあきらめなければなりません。何とかイラに刺されない工夫はないのでしょうか。

いくつか妙案がありますので、紹介しましょう。まず、A)静かに泳ぐことです。バジャバジャと泳ぐと触手に触れやすいものです。浮き身の最中に刺されることはまずありません。B)瀬戸内海は少ないです。また、沖や河口にはほとんどいません。C)ウエットスーツやTシャツなどを着ると刺胞の棘が刺さるのを防げます。D)クラゲにさされない塗り薬が最近市販されています。

8. 最後に

イラは楽しい海水浴を台無しにする「海水浴場の嫌われ者」ですが、私は沿岸域の自然生態系の重要な構成員と思っています。イラは人知れず、自然の海で重要な働きをしているはずですが、まだその役割がよく分かっていません。しかし、ただ不愉快な生き物だと言うことで、根絶やしにすることは、生態系を破壊することにももっと危険なことだと思っています。

さて、私の提案ですが、イラと共存することを考えてみませんか？ また、イラを生態系での重要な働きを研究してみませんか？ 「嫌われ者」ではなくて、本当はすばらしい生物かも知れませんよ。そのためには、どうしたらよいでしょう？